

# Funehiki High School News vol.99

## ◆デュアル実習Ⅰ前期が終了

地元の企業のご協力により職業体験をする「デュアル実習」のデュアル実習Ⅰ（2年生）の前期が終了しました。実習を終えた生徒たちの感想を紹介します。

なお、3年生の実習は、年度末まで通年で行っています。  
●安瀬光基「実習をして思ったことは、報告・連絡・相談が大切であること。この3つは、将来どこへ行っても重要視されることだと思う。後期の実習でも、報告・連絡・相談と、あいさつなどコミュニケーションを忘れないようにしたい。」

●大沼竜也「学校生活では“失敗してもやり直せる”と甘く考えがちだが、会社ではやり直すことができない場合が多い。製造業では、1つの工程でミスをしてしまえば、やり直しができなったり、出荷できなくなったりして会社の損害につながることもある。1つ1つの作業に責任感を持つことが大事だと分かった。」



## ◆1年生進路ガイダンス

10月2日、専門学校の講師を招いて、1年生向け進路ガイダンスが行われ、生徒たちは医療、調理、トリマーなど様々な分野に分かれて体験をしました。どの生徒も講師の話に耳を傾け、将来の職業について理解を深めたようです。



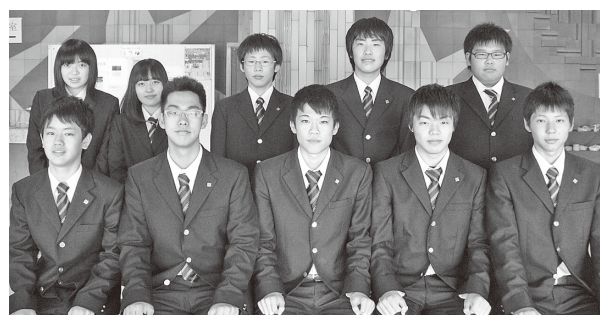
## ◆PTA奉仕作業



## ◆生徒会の新役員が決定

9月18日、生徒会役員が改選されました。10人の新役員は次のとおりです。

| 役職   | 氏名     | 学年 | 出身中学校 |
|------|--------|----|-------|
| 会長   | 吉田 公幸  | 2  | 船引中   |
| 副会長  | 菅野 勝貴  | 2  | 船引中   |
| //   | 三浦 ゆかり | 1  | 移中    |
| 書記   | 穴戸 善樹  | 2  | 西田中   |
| //   | 柳沼 凧   | 1  | 三春中   |
| 会計   | 安瀬 光基  | 2  | 船引中   |
| //   | 石井 新一  | 1  | 常葉中   |
| 会計監査 | 渡邊 翔太  | 1  | 常葉中   |
| //   | 岡田 一佐  | 1  | 大越中   |
| //   | 伊藤 南   | 1  | 三春中   |



9月12日、午前7時30分から約2時間、後期PTA奉仕作業が行われ、約70人の保護者、部活動の生徒と職員が、除草や石拾いをしました。早朝から多くの方々にご協力いただき感謝します。



福島県立船引高等学校 Tel…0247-82-1511 Fax…0247-82-5233  
HP…<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail…[school@funehiki-h.fks.ed.jp](mailto:school@funehiki-h.fks.ed.jp)



## “収穫感謝祭”の思い出

Brandon Terpsma  
ブランデン・タープスマさん  
(アメリカ合衆国  
ネブラスカ州出身)

|   |   |   |        |   |
|---|---|---|--------|---|
| 海 | を | 越 | え      | て |
| 英 | 語 |   |        |   |
|   | 指 | 導 | 助      | 手 |
| ペ | ン | リ | レ      | ー |
|   |   |   | No. 29 |   |

あなたは“収穫感謝祭 (Thanksgiving day)”を知っていますか？  
アメリカでは、毎年11月の第4木曜日に、この収穫感謝祭を祝います。この日はアメリカの祝祭日の一つで、ほとんどの学校や職場が休みになります。その家々によって若干違いがあると思いますが、基本的に、家族・親族が集まってご馳走を食べ、与えられているすべてのものに感謝するのです。

収穫感謝祭の伝統は古く、それはアメリカ合衆国の建国以前にさかのぼるとされています。イギリスから北米大陸へ移住したグループの1つは、その年の冬が厳しかったために食糧が不足し、多くの死者を出しました。そこへ近隣の先住民が現地に合った農業などを教えてくれて、翌年の作物の収穫量が増え、彼らは危機を脱することができました。そこで、彼らは近隣の先住民を招待し、作物の恵みを感謝しながら、一緒にご馳走をいただいたということです。現在の収穫感謝祭は、その伝承、由来や宗教的な意味合いよりも、たくさんの親族や友人が集まる大規模な食事会としてとらえられています。でも、軽く考えられているわけではありません。収穫感謝祭は、アメリカ人にとって大切な家族行事の1つなのです。日本でいうと、お正月やお盆がそれに近いかもしれませんね。

僕が子どもの頃は、収穫感謝祭の日には祖父母の家へ行き、祖父母、両親、おじ・おば、いとこたちと一緒に一日を過ごしました。  
うちのしきたりでは、午前中はご馳走の準備に時間を費やします。七面鳥と「スタッフィング」(七面鳥に詰める料理)、マッシュポテト、野菜やパン、そしてデザートにパイなど…とにかく豪華でした。

ご馳走の準備がひと段落したら、テレビで実況中継される感謝祭パレードを見たり、家族みんなでボードゲームをしたりします。毎年趣向を凝らしているパレードを見るのは、子どもたちにとっては大きな楽しみでした。

午後は、親族みんなでテレビに向かい、よくアメリカンフットボールの試合を見たものです。天気が良いときは、外に出て、実際にアメリカンフットボールを楽しんだこともありました。

雪が積もっていれば、フットボールではなく、そり滑りをします。祖父母は農場を営んでいて、裏庭には大きな丘があったので、そり滑りには絶好の坂になるのです。

収穫感謝祭は、僕が大好きな祝日の1つです。毎年、当日を心待ちにしています。それは子どもの頃から変わることがありません。

収穫感謝祭が終われば、クリスマスまであと1か月です。そして、クリスマスが過ぎれば、新年はすぐそこです。収穫感謝祭は、その年が終わりに近づいたことも教えてくれるのです。

